



令和7年7月1日
青物横丁えほん保育園

先月末から30℃越えの厳しい暑さが続くようになり、熱中症が心配な時期となりました。体が暑さに慣れていない梅雨明けや、急激に気温が上がった日は特に注意が必要です。水分補給や体調管理に気を付けながら、涼しい時間帯は外遊びをして、暑さに負けない体づくりを心掛けていきましょう。

夏の事故に気をつけて!!

熱中症

熱中症とは、主に初夏から夏にかけて環境(高温多湿)に身体が適応できないことで起こる様々な症状の総称です。高齢者が多いですが、小児もかかりやすいです。子どもは低年齢ほど症状をうまく言えないことに注意して下さい。子ども自身から言い出さなくても、大人からの積極的な休憩や水分補給の促しが必要です。

車内に注意!

夏場の車内環境は、高温多湿になりやすく、たとえ短い時間でも非常に危険です。車内に閉じ込められ、熱中症で亡くなったという例もたくさん報告されています。車内の子どもを認識していても、このような事故が起こっています。子どもに鍵を持たせていたら、運転席に乗るために車外に出た一瞬の時間に子どもが鍵を作動させてしまい、ロックがかかって閉じ込められたり、車内に鍵を置いたまま車外に出たときに、子どもに内側からロックをかけられてしまったりと、目の前で子どもが車内に閉じ込められてしまうケースも多いようです。



車内温度の変化			
	車内最高温度	車内平均温度	ダッシュボード最高温度
対策なし(黒)	57℃	51℃	79℃
対策なし(白)	52℃	47℃	74℃
サンシェード装着	50℃	45℃	52℃
窓開け(3cm)	45℃	42℃	75℃
エアコン作動	27℃	26℃	61℃

※日本自動車連盟(JAF)ユーザーテストの結果を元に作成

溺水

乳幼児の不慮の事故で2番目に多い「溺水」。溺れる時にバシャバシャもがくのは映画などの世界だけです。実際は、溺れた状況を理解できず、もしくは呼吸に精一杯で声を出す余裕もなく、静かに沈みます(本能的溺水反応といいます)。入浴中やプール遊びをする際にはしっかり見ていてあげて下さい。



予防方法

- 屋外では帽子を着用しましょう。日よけのついたベビーカーも地面との距離が近く、地表の熱を受けやすいです。長時間の遊びや散歩などは控えましょう。
- こまめな休憩や水分補給は、大人が様子を見て積極的に促しましょう。子どもは体の不調を十分に訴えられないうえ、遊びに夢中になると、熱中症のサインに気付くのが遅れてしまいます。
- 十分な睡眠(午後の昼寝は効果的)や食事をしっかりとることで、体調をコントロールしましょう。胃腸炎や風邪などにかかっている時は熱中症にかかりやすいので注意して下さい。



6月の感染症報告

溶連菌感染症

- ・4歳児クラス: 3名

嘔吐・下痢症状(胃腸炎)

- ・1歳児クラス: 3名
- ・2歳児クラス: 1名
- ・3歳児クラス: 2名

伝染性膿痂疹(とびひ)

- ・3歳児クラス: 1名

毎年5~6月は嘔吐下痢症状が流行りますが、今年は5月も6月も例年と比較して非常に少ない感染者数となっています。かわりに幼児クラスで5月から引き続き溶連菌感染症がみられている状況です。

水遊び・シャワーについて

6月よりシャワー、7月1日から水遊びを始めます。子ども達の体調を把握するため、必ず水遊びカード(幼児はコドモン)に記載をし、担任にお渡し下さい。目、耳、鼻、喉、皮膚の症状がある際には、水遊びができないことがあります。元気に遊ぶためにも、夜はしっかり寝て、朝ご飯もきちんと食べましょう。

